

● 佳作 (18 点) ※受賞者名 50 音順

作品タイトル	受賞者	都道府県	作品コンセプト	
温熱を収納するいえ	浅見 泰則 皆川 貴弘	株式会社 日本設計 建築家	東京都	収納から物を取り出すように、暖かさという居住性を取り出す家を提案します。 この家は、家の中央に太陽光を熱エネルギーに返還する蓄熱温素材で作られた蓄熱層(=温熱収納)を持ち、冬の昼間の強い光を熱として収納して、夜に収納を開けることで居住空間を暖めます。 また、温熱収納をドアという室同士を結ぶ要素で形作ることで、熱を介して人や場所同士が多様につながり合う豊かな居住空間を形成します。
Platinum Gate Museum	石崎 佑樹	工学院大学 大学生	東京都	ガラス繊維にプラチナ微粒子を吹き付けた1枚のシートを折り紙のように折り曲げたアーチ形状。下部からベンジンを気化させプラチナ触媒作用を利用し発熱する。25ccで24h発熱し、有害なガスは一切発生しない。冬期は暖房として使用され、夏期は日陰を作り出すオブジェとなる。Platinum Gateの下ではアート展などの催し物が開かれ、冬期、夏期を問わず1年中人々が集まる場を作り出す。
雪蛭でつながる部屋	市原 裕之	清水建設株式会社 建築家	兵庫県	京都丹後地方は日本海に面し時期によっては大雪になることもある。 かつてこの地方で見られた雪室がキッチンに設ける。雪室には大小の穴が開いていて、そこにか作った野菜を雪の中に入れる。雪の深く野菜が採れない昔はこうやって野菜を保存していた。
S×F House	犬飼 山本	大学院生	愛知県	エコロジーかつ膨大なエネルギーな太陽と、暮らしの中でいつも人と共にある家具。この2つをリンクさせることにより、暖かな空間には人々が集まり、ふれあうことで、心からも温まるのである。これまで室内にあり太陽と接点が希薄だった家具。熱によって太陽と結びつけたソーラー家具(Solar Furniture)は太陽の恵みを室内に導くのである。
Various Functions Share Warmth	入口 佳勝	広島工業大学 大学院生	広島県	1つの空間を様々な機能がシェア出来れば、過度な暖房を使わず、暖かさをシェアする事にも繋がるのではないだろうか。
バルブドーム	クラーソンコイヴィスト ルーネ	クラーソン コイヴィスト ルーネ 建築家	スウェーデン	2種類の三角形のパネルから形成されるドーム。パネルはバルブにバイオプラスチック、PLAを付加して鋳型によって作られることにより、屋内でも屋外でも使用可能になる。バイオプラスチック、PLAはコーンスターチとサトウキビから作られ、生物分解性は100%だ。ドームは簡単に組み立てられ、フラードームの図形によって丈夫な構造となる。
地産地消ユニット36.75X36.75	毛塚 順次	大成建設株式会社 建築家	東京都	提案では時が経ち木材の寿命が近づくとつれ住宅建築に使用した本数の樹木が育ちます。樹木群は地下水を溜め活用します。樹木群により冷やされた空気は木造住宅の開放的な間取を再生させます。
体温をリサイクルするCO2-COON	小林 桂樹	設計士	山梨県	エコと日本を代表する和紙でつくる温つたかくて親密な人間空間です。和紙の素材を活かし、軽くて持ち運びにも便利で見た目も優しい存在になるでしょう。私たちの二酸化炭素と体温をリサイクルしてくれる「まゆ」。
都市の汀	迫 淳海 市原 裕之	清水建設株式会社 社員	兵庫県	健康は人の心を温める要素である。同じ目的を持って人が集まると、そこには暖かな時間が流れる。雑草と言われる植物の中には、体によい効用を持つ薬草がある。古くから「春の七草」と呼ばれるように、日本人は雑草の効力を昔から知っており、体に潜在的にある自然治癒力や抵抗力を強める力を有効に活用してきた。地域で採れる薬草を用いて、都会で暮らす人々の身体を自然体に戻し、暖ためることで冬の寒さに抵抗していく場である。
ユタンボハウス	徳田 直之 小川 武士	芝浦工業大学 大学院生	東京都	足だけで転がっていたユタンボに、今度は自分が転がされているように家全体が一つのユタンボになっている。風雨の被害や悪意をこもりながら、毎日を必死に生きている。環境に優しいといことは、環境と真正面から格闘しているということであるかもしれない。四季を通して環境に右往左往されながら住んでみると、初めて環境を知ったような気になる。
スキマシェア	中西 由美子	フリー	広島県	過度な暖房器具の使用を減らすため、様々な場所で暖かな毛布となるラグを考えた。 普段はフラットなラグである。寒いとは大きく口を開け、ポケットに入れてくれる。 断熱性の高い2枚のフェルトのスキマをともに過ごすことでシェアし、小さい暖かな空間と同じ時間を共有する。スキマシェアは、そこで暮らす人々のフロアスケープと暖かなひとときをつくりだす。
112ピースの空間	長谷川 欣則	長谷川欣則建築設計事務所 建築家	埼玉県	発泡ポリスチレン製の小さなピースを繋ぎ合わせることで環境に配慮しながら組立てる「楽しさ」を持った空間を提案します。1000mm角の小さなピースは軽量で簡単に組立てることができ、蟻継ぎのような形を利用して繋ぎ合わせるため少ない部材で作ることができます。また発泡ポリスチレンは素材自体が断熱材なので極めて高い断熱性能を持つことや、リサイクル可能であること等、CO2を大幅に削減できる特徴を多く持ちます。
ふわら	古田 真知子	会社員	群馬県	ふわらは、暖かく過ごす基本「足下から温める・湿度を保つ」を押しに実行するインテリアである。床暖房を限定したスペースに行き、上にふわらを浮かべる。上昇する暖気を下に近い範囲で返し、コールドドラフトに傘をさす。花を生けるように加湿用不織布を挿し、自ら行う意識を大切に。「スペースを限定」、「空気の対流を生かし過剰な暖房をしない」、「NOエネ加湿」、CO2削減の工夫をふわり、ゆらり暖かな場であらわす。
Energy Leaves	南 泰裕 + 国士館大学南研究室	国士館大学理工学部建築学系 建築家	東京都	ノートパソコンと同じような、小さなエネルギー・ユニットを考える。 蓄熱材と蓄光材を貼り合わせたこの「エナジー・リーブス」は、あたかも植物の葉のように太陽光を受け止め、ほのかな熱と光をあちこちに創り出す。 「エナジー・リーブス」は用途に応じて集合し、コタツにもなればパネルヒーターにもなり、屏風にもなる。このユニットが都市の内外に配され、電気を使わないことで、環境に大きく寄与する。
ケーススタディ ユニット	美濃 吉昭	有限会社エーイー建築設計事務所 建築家	大阪府	ただ窓を開閉するだけで「緑」の機能が変換されます。冬はサンルームになる受熱空間であり、夏はバルコニーとなり庇と陰の縁です。導入したエアサイクルが増幅され、エネルギー消費率を40%減らすことが出来ます。フラットの2次元スペースから、陽光と四季の動きが実感できる多次元の生活空間を楽しむ事が出来、又LD家具(ソファ、椅子)の呪縛から開放された、フレキシブルな和の居ずまいの場を提案します。
農業用の休憩、寄合いの家	美濃 吉昭	有限会社エーイー建築設計事務所 建築家	大阪府	水を詰めた塩ビ製パイプの連壁、連床による水のラジエーターに包まれた家です。 人が集うための共感できる場と居ずまいの良さを求めて想定したチューエーションです。 温室は受熱空間なので昼間の太陽エネルギーを蓄熱すれば夜間にも対応できます。 「暖房のエネルギーの消費量0」を目指しました。
ORIGAMI	弥永 菜生	九州産業大学 大学生	福岡県	幼い頃誰もが一度は触れてことがある折り紙。紙を折ることで種々の物の形を作る遊びです。今回、その折り紙を利用して、一枚の紙からあたかみを感じる空間 ORIGAMI を提案します。自分たちの手で創意工夫しながら、温かみのある集いの場をつくることができます。再生紙を利用することによって、ゴミの減量化、エネルギー消費量の節約、森林資源の節約など多くのCO2の削減にも貢献できます。
まちのこたつ	渡部 将吾 長田 敬弘	関東学院大学 大学院生	神奈川県	居住空間は、室内や家の中だけではなく普段わたしたちがまちの中で生活している外部空間や公共空間も、同じように暮らしている空間として居住空間と考えるのではないかと。地域全体で削減に貢献するだけではなく、地域住民の日常の中に人間関係を暖めるきっかけを散りばめる様々な形のこたつをつくる。大規模なスケールからヒューマンスケールに焦点を合わせ、住んでいる人たちに暖かな潤いを与える外部空間を提案する。